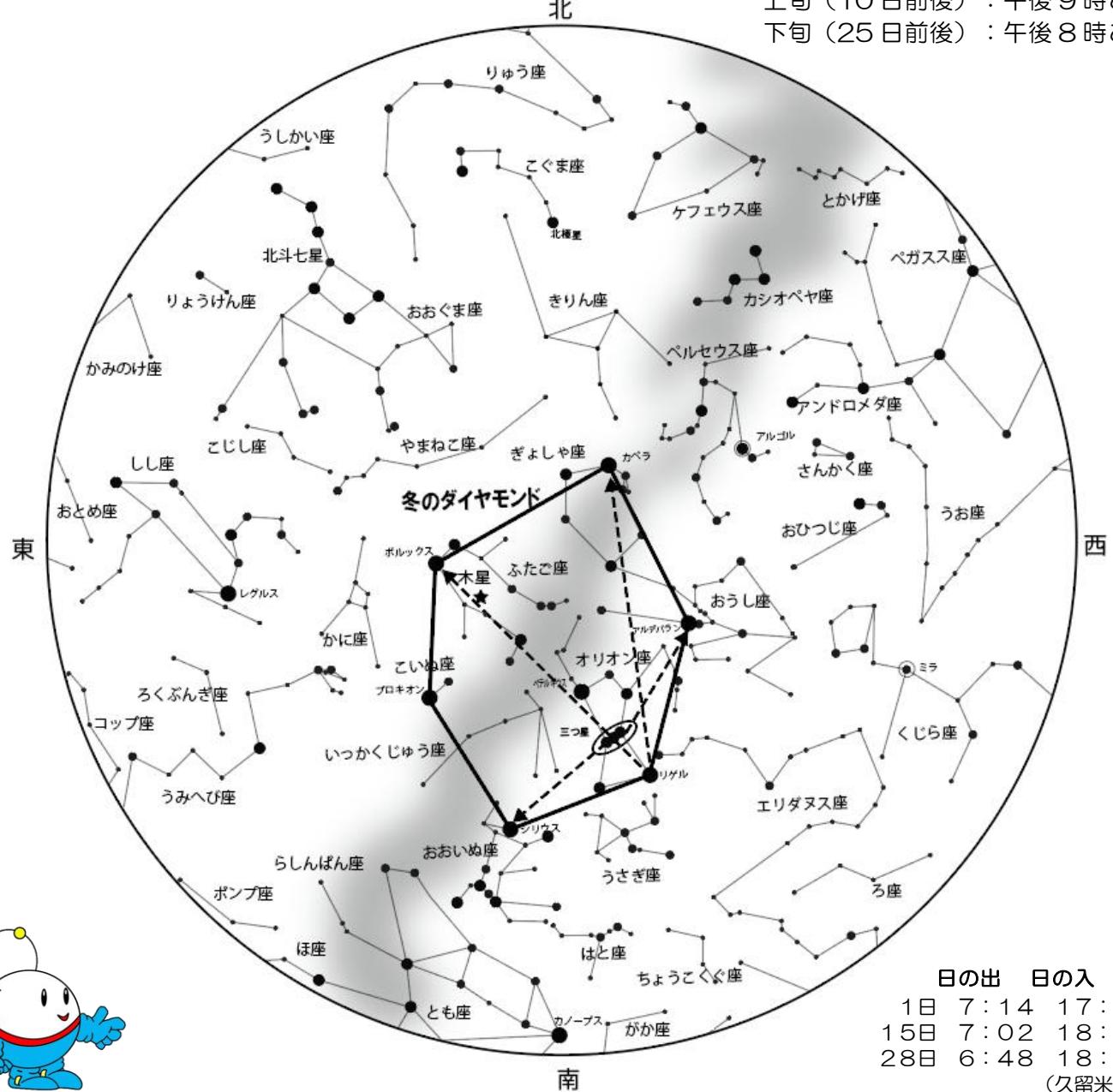




上旬（10日前後）：午後9時ごろ
下旬（25日前後）：午後8時ごろ



今月の星座さがしは、等間隔に並んだ3つの星“三つ星”と、それを取り囲む明るい4つの星がつくる砂時計のような星の並びをしているオリオン座からスタートです。オリオン座には明るい1等星が2つあります。オリオン座の左上で赤く輝く星は1等星のベテルギウス、そして、右下で青白く輝く星は1等星のリゲルです。

まず、オリオン座の“三つ星”を南東（左下）にのばしていくと、白く輝くおおいぬ座の1等星シリウスが見つかります。シリウスは星座を形づくる星の中で最も明るい星です。次に、シリウスから北東（左上）に目線を移すと、白く輝くこいぬ座の1等星プロキオンを見つけることができます。そして、オリオン座のリゲルからベテルギウスを結んだ線をのばしていくと、黄色に輝くふたご座の1等星ポルックスを見つけることができます。オリオン座のリゲルから右上の星を結んだ線をのばしていくと、ここには黄色に輝くぎょしゃ座の1等星カペラを見つけることができます。最後に、オリオン座の“三つ星”を北西（右上）にのばしていくと、オレンジ色に輝くおうし座の1等星アルデバランが見つかります。

オリオン座のリゲル、おおいぬ座のシリウス、こいぬ座のプロキオン、ふたご座のポルックス、ぎょしゃ座のカペラ、おうし座のアルデバランをつなぎ星の並びが『冬のダイヤモンド』です。『冬のダイヤモンド』を形づくる1等星はとても明るく、街明かりの中でも見つけることができます。

日本で見ることができる1等星は全部で15個あります。そのうち7個は冬の1等星です。暖かい服装で『冬のダイヤモンド』を探すとともに、色とりどりの1等星も一緒に楽しんでみてはいかがでしょうか。

《2月の天文カレンダー》

日	曜日	天文現象	日	曜日	天文現象
2	月	○ 満月 (07:09)	17	火	● 新月 (21:01)
4	水	立春	24	火	○ 上弦 (21:28)
9	月	○ 下弦 (21:43)			

【惑星の見え方】 (☆マークは、今月のおすすめです。)

- | | | |
|-----------------|-------------|-------------------|
| ☆水星 (0.7~-1.2等) | : やぎ座→うお座 | 日の入り30分後、西の低空で輝く。 |
| 金星 (-3.9等前後) | : やぎ座→みずがめ座 | 観望に適さない。 |
| 火星 (-1.2等前後) | : やぎ座→みずがめ座 | 観望に適さない。 |
| ☆木星 (-2.5等前後) | : ふたご座付近 | 宵の頃、東から南東の高い空で輝く。 |
| ☆土星 (1.1等前後) | : うお座付近 | 宵の頃、西の低空で輝く。 |

注目の天文現象

～皆既月食を見るチャンス～

3月3日、ひな祭りの日の宵から深夜にかけて皆既月食が起こります。この月食は日本全国で見ることができます。

月食とは、地球が月と太陽の間に位置し、地球の影が月にかかることで、月が暗くなったり、欠けたりする現象のことです。

月は、東の空で18時50分にかけはじめ、20時4分に皆既食となります。皆既食となった月は、「赤銅色（しゃくどういろ）」と呼ばれる赤黒い色に見えます。皆既食は21時3分に終わり、その後は徐々に欠けた部分が小さくなっていき、22時18分に、東南東の空で部分食が終わります。皆既月食の全行程が、あまり夜更かしをしないで済む時間帯で起こるため、観察しやすい月食となっております。

次に、日本全国で見られる皆既月食は、2029年1月1日の年が明けるとすぐに(0時7分)月が欠け始めるという面白いタイミングで起きます。ただし、約3年後になりますので、ひな祭りの夜に見られる今回の皆既月食をぜひご家族で観察してみてはいかがでしょうか。



【ステラナビゲータ11/株式会社アストロアーツ】

《天文イベントのご案内》

プラネタリウム コスモシアター 美しい夜空行き～波照間島編・フィンランド編～

およそ10分間の無料特別投映です。波照間島（沖縄県）やフィンランドなど、普段見ることが難しい夜空の星座解説をします。

■開催日時：2月の土日祝（2月28日を除く）16:45～16:55

■参加対象：制限なし

■参加費：無料

ご不明な点がございましたら来館またはお電話にてお問合せ下さい。

（☎ 0942-37-5566）



当館HP QRコード

